

授業科目	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳ				実務家教員担当科目	○
単位	1	履修	選択	開講年次	3	開講時期
担当教員	荒木 剛、梶原 浩介、通山 久仁子、中川 美幸					
授業概要	<p>各福祉分野の実務家教員が自らの実践経験を踏まえて、地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用し、ソーシャルワークの展開とそこで活用される専門的な知識・技術の習得に向けた実技指導を行う。また、ソーシャルワーク実習Ⅱの後には、各自の実習体験を踏まえた個別・集団指導による事例研究・事例検討を行う。なお、本講義は「ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」と連動して行われる。学生は4つのグループに別れ、各教員が担当するテーマをローテーションで全て受講する。</p> <p>※履修対象者は、社会福祉士資格の取得希望者（ソーシャルワーク実習Ⅱの履修者）となります。</p>					
授業形態	対面授業	授業方法	ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション			

学生が達成すべき行動目標

標準的レベル	<p>地域が抱える課題の現状とその社会的背景について理解し、課題解決に向けた知識・技術の活用を検討できる（具体的には以下の通り）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事例検討の意義と目的を理解できる。 2. ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術の統合を行い、専門的援助技術として概念化し、理論化し、体系立てていくことができる能力を習得できる。 3. 社会福祉士に求められるソーシャルワークの価値規範を理解し、倫理的な判断能力を習得できる。 4. 支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に習得できる。 5. 地域の特性や課題を把握・解決するためのアセスメントや評価等の仕組みを実践的に習得できる。 6. ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に習得できる。 7. 事例検討や事例研究の具体的方法について習得できる。また、それらを通じたスーパービジョンについて理解できる。
理想的レベル	ソーシャルワークの実践モデル・アプローチに基づき地域が抱える課題の解決に向けた支援を検討できる。また、支援を概念化・体系化し、他者に示すことができる。

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験	0	
小テスト	0	
レポート	0	
発表（口頭、プレゼンテーション）	30%	
レポート外の提出物	20%	
その他	50%	授業への参加意欲や態度等で評価します。

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

2025年度 授業コード：22116100

第13回	【事例検討】(担当：全教員) 授業内容及び展開方法は上記を参照のこと。
第14回	【事例検討】(担当：全教員) 授業内容及び展開方法は上記を参照のこと。
第15回	【事例検討】(担当：全教員) 授業内容及び展開方法は上記を参照のこと。
テキスト	プリント・レジュメ等を配布する。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	適宜紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	コメントや回答例の提示等によりフィードバックする。
学生へのメッセージ・コメント	ソーシャルワークの基本的視点及び課題解決に資する知識、支援技術を必要とします。日頃から新聞や関連雑誌等に目を通す習慣をつけ、福祉課題の現状について理解を深めておくこと。

